

カルト勧誘の例



団体名を秘匿し、特に若い世代を対象とした勧誘活動を全国で組織的に展開中

ステップ1 偽装サークルから勉強会に勧誘

- ・ 団体名を秘匿したまま、サークル仲間やイベント参加者を募集するウェブサイト上において、「ヨガ、心理学、メンタルヘルスが学べる」などと宣伝する。
- ・ 募集の対象を主に30歳以下に設定し、カルト団体に関する知識の少ない世代を主に勧誘対象にしている。
- ・ 応募又は問い合わせをしてきた者に対し、Zoomなどを通じて説明会を行い、勉強会に参加するよう促す。

ステップ2 勉強会を重ねて人間関係を構築

- ・ 勉強会でも、構成員が団体名を秘匿した状態で、講師役やその補佐役、サークルの会員役などとして登場し、ヨガや心理学などの講義や質疑応答、雑談を通じて、勧誘対象者との距離感を縮めていく。また、勧誘対象者の悩みを聞き出し、相談に応じるなどして人間関係を構築する。
- ・ 勉強会の内容については、次第に宗教や精神世界に関するものに移行していき、教祖の名前を出さずにカルト教義を一般的なものとして解説する。人間関係が一定程度熟してきたところで、カルト団体が引き起こした過去の大事件は第三者による陰謀であると説明するなどしながら、勧誘対象者が団体に対する抵抗感を持たないように誘導する。

ステップ3 団体名を明かして入会へ

- ・ 人間関係が構築され、団体に対する抵抗感が見られず、入会に応じるだろうと判断した段階で、勧誘対象者に団体名を明かして入会を促す。
- ・ 動揺して入会の意思を示さない場合、「今まで学んできたことが無駄になる」と強い口調で詰め寄り、断りづらい精神状態や環境に追い込み入会させる。

ボランティア活動、インカレサークルを通じたスポーツ交流、SDGsをテーマにした環境に関する勉強会等、様々なイベントを介して勧誘活動が行われています。